

平成19年度

中学生海外派遣事業

～ 報告集 ～

と き 平成19年8月15日～22日

ところ 西オーストラリア州パース近郊、スワン市

稲美町国際交流協会

オーストラリア訪問メンバー(13名)

引率者

	氏名	性別	所属
団長	大山 健次 <small>けんじ</small>	男	稲美町教育政策部 教育課学校教育担当課長
副団長 事務局長	橋本 真由美 <small>まゆみ</small>	女	稲美町国際交流協会副会長
生徒指導	藤田 真由美 <small>まゆみ</small>	女	稲美北中学校教諭

派遣生

No	氏名	性別	中学校	年組
1	田中 良宜 <small>よしのり</small>	男	稲美	3-1
2	井澤 沙知 <small>さち</small>	女	稲美	3-1
3	大西 史記 <small>ふみのり</small>	男	稲美	3-4
4	原 由洋 <small>よしひろ</small>	男	稲美	3-4
5	吉田 裕子 <small>ゆうこ</small>	女	稲美	3-4
6	政平 純一 <small>じゅんいち</small>	男	稲美北	3-1
7	足立 明日香 <small>あすか</small>	女	稲美北	3-2
8	安福 友紀 <small>ゆき</small>	女	稲美北	3-2
9	太田垣 彩子 <small>あやこ</small>	女	稲美北	3-3
10	鶴岡 美由紀 <small>みゆき</small>	女	稲美北	3-4

平成19年度 中学生海外派遣事業プログラム

日	月日 (曜)	都市	発着	現地時刻	交通機関	日程(泊)	食事
1	8月15日 (水)	役場南側玄関 関西国際空港 関西国際空港 チャンギ空港 チャンギ空港 パース国際空港 パース市内	発着 発着 発着 発着 発着	6:30 9:00 11:00 16:35 18:50 23:50	町のバス SQ985 SQ215 専用車	関空へ 空路、シンガポールへ (荷物は預けたまま) 空路、パースへ 入国手続後、ホテルへ (ホテル泊)	朝 自宅 機内食 機内食
2	8月16日 (木)	パース市内 パース市内 パース市内 パース市内 バンバリー市	発着 発着 発着 発着	9:00 9:15 9:15 10:00 12:30	専用車 専用車	兵庫文化交流センターへ 兵庫文化交流センター 小川所長表敬訪問 ファーガソンファームへ ファームステイ (ファームステイ)	朝 ホテル 昼 ファーム 夜 ファーム
3	8月17日 (金)	バンバリー市 スワン市 スワン市 スワン市	発着 発着 発	12:30 16:00 16:30	専用車	スワン市役所へ スワン市長表敬訪問 ホストファミリーと対面	朝 ファーム 昼 ファーム 夜 ホスト
4	8月18日 (土)	スワン市				ホストファミリーと過ごす	朝 昼 夜 ホスト
5	8月19日 (日)	スワン市				ホストファミリーと過ごす	朝 昼 夜 ホスト
6	8月20日 (月)	スワン市		8:30 15:00 18:00	ホストファミリー ホストファミリー ホストファミリー	Governor Stirling Senior High School体験入学 ホストファミリーと帰宅 スワン市主催歓迎レセプション・夕食会 (ホストファミリー・ホスト校関係者・市議会議員など)	朝 ホスト 昼 学校 夜 スワン市
7	8月21日 (火)	スワン市 スワン市 パース市 パース市 パース市 パース国際空港 パース国際空港 チャンギ空港	発着 発着 発着 発着 発着	8:30 9:00 9:30 9:30 13:30 14:00 15:55 21:15	ホストファミリー 専用車 専用車 SQ226	学校集合 パース市内へ向け出発 パース市内見学(買い物など) パース国際空港へ出発 空路、シンガポールへ (荷物は預けたまま)	朝 ホスト 昼 各自 機内食
8	8月22日 (水)	チャンギ空港 関西国際空港 関西国際空港 稲美町	発着 発着 発着	1:10 8:35 9:20 11:30	SQ986 町のバス	空路、関空へ 陸路、役場へ 解団式	機内食

中学生海外派遣事業の経過

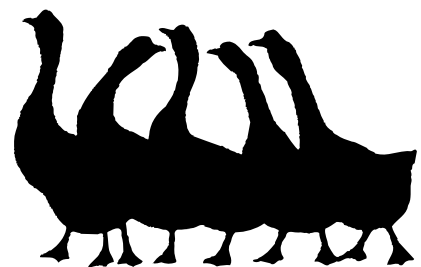
- 4月 9日 両中学校を通じて中学3年生に申込書を配布
- 4月23日 中学校申し込み締め切り日（申込者・・・10名）
（稲美中・・・男3、女2 稲美北中・・・男1、女4 計10名）
- 5月 1日 選考会実施（作文試験、面接試験）
- 5月18日 中学生に選考結果の合否通知文書を発送
派遣生10名の決定（稲中・・・男3、女2 北中・・・男1、女4）
- 6月16日 事前研修1
・事務局、日本旅行から旅の説明
- 7月 2日 事前研修2
・ALTのアン先生・ダニエル先生による英語研修
・出し物の協議（踊り、歌、劇などをしてはどうか）
- 7月 9日 事前研修3
・ALTのアン先生・ダニエル先生による英語研修
・出し物の決定
（歌「上を向いて歩こう」、踊り「ズッコケ男道」「ラジオ体操」）
- 7月13日 事前研修4
・稲美北中の3年生の女の子に講師に来てもらい出し物を練習
（ズッコケ男道、ラジオ体操）
・稲美町クイズ
- 7月23日 事前研修5
・事前研修資料を読む
・出し物の練習（ズッコケ男道、ラジオ体操、上を向いて歩こう）
- 8月 3日 事前研修6
・事務連絡（報告書の書き方、しおりの確認等）
・英語研修
・出し物の練習（ズッコケ男道、ラジオ体操、上を向いて歩こう）
- 8月 6日 事前研修7
・英語研修
・出し物の練習（ズッコケ男道、ラジオ体操、上を向いて歩こう）

8月13日 結団式
・出し物の練習（ズッコケ男道、ラジオ体操、上を向いて歩こう）

8月15日～22日 オーストラリアに派遣

8月22日 解団式

8月31日 反省会



中学生海外派遣事業の記録

事前研修 吉田 裕子



中学3年生になり、受験生なので塾も忙しくなる中、事前研修に行くことが大変だった時もありました。でも、1回1回、回数を重ねていくうちにみんな仲良くなって、楽しくなっていたので、忙しくても苦じゃなくなっていました。

私は英語があまり得意ではなかったのですが、ALTや藤田先生など、周りの大人の方々がオーストラリアに行っても大丈夫なようにたくさん教えてくれたので、得意になれました。

歌やダンスは、わざわざ稲美北の子が教えに来てくれて、覚えるのは大変だったけど、覚えてからはダンスがとても楽しみになりました。歌も、「10人だけで歌うから大きい声出さな」と思って、音痴だったと思うけど大きい声で歌えました。

事前研修で10人が一致団結でき、よいスタートが切れて良かったです。団結できたのは周りの皆さんのお陰でもあります。

8月13日(月)結団式 田中 良宜

オーストラリア派遣の2日前に結団式が行われました。結団式では、僕たち10人

を含め、引率してくださる方々、先生、他にもたくさんの大人の方が参加してくださいました。

そして、その結団式で僕たちは一人ひとり決意を述べていきました。みんなオーストラリアに行くのは同じなのに、全員違う決意があって、みんな違うことを学ぶのだなぁと思いました。

その後、町長さんや他の方の話聞き、結団式が終わりました。でも僕はその結団式でどれだけ多くの方がこの派遣事業に関わっているのかを知りました。だから、この派遣事業を成功させ、必ず無事に帰ってこようと思いました。多分、みんなも同じことを思っていたと思います。簡単なことだけど、それがどれだけ大きなものなのかを身をもって感じました。感謝の気持ちを忘れず、全員が無事に帰ってくること…、それを何よりも優先して、この日本に帰ってきたいと思いました。



8月15日(水) 原 由洋

6:30に役場を出発し、オーストラリアへと向かいました。行きのバスの中では、みんな明るくしゃべったりして未知なる世



界へと想像を膨らませていました。関西国際空港では、荷物検査やパスポートを提示したりしました。初めてのことばかりでしたが、添乗員の方や先生方の指導もあって、無事全員が飛行機に乗ることができました。飛行機からの景色はとてもきれいで感動しました。初めての機内食は量が多く感じられたけど、とても美味しかったので全て食べることができました。乗り換え地点であるシンガポールではみんなで固まって動いて、いろんな店を見て回りました。けれども、買い物をした人はほとんどいませんでした。

日本時間午前1時にオーストラリアに到着。空港の外は息が白くなるほどの寒さだったので驚きました。バスでホテルに行き、あまりオーストラリアに来たという実感がないうまま、明日からの活動に期待を膨らませて就寝しました。

8月16日(木) 足立 明日香

今日の午前中は兵庫文化交流センターを訪問しました。そこで小川所長さんのお話を聞いてファーガソンファームに向かいました。移動中にバスから見える景色はとてもきれいで、日本では見れない景色でした。

ファームに着いたとき、どこを見ても緑

しかないことに感動しました。トランポリンやバスケットをして遊んでから、トラクターに乗せてもらってファームの中を回りました。空気が良くて気持ちよかったです。それからみんなで看板を作りました。自由時間はブランコに乗ったりもしました。



夜にはキャンプファイヤーをしました。ジョンさんがアボリジニーの良いお話をしてくれました。たくさんの星が見れてとてもきれいでした。天の川や南十字星も見れました。

大自然の中で色々な動物とふれあったりできてとても楽しい思い出に残る1日でした。

8月17日(金) 大西 史記



今日は朝からファームで活動しました。朝6時に HOUSE を出て散歩をしました。

風がとても冷たくてビックリしました。朝食も済み、最初にしたことは牛の乳しぼりです。以前、小学校の自然学校で体験していたので上手くできました。次は、稲美町の方角に向けて看板を立てました。昨日から取り掛かっていて、完成した時はとても嬉しかったです！！他にもいろいろなことをし、ファームを後にしました。オーナーのジョンさんにはとても感謝しています。

ファームからホストファミリーに会いに行くバスの中は、昨日の夜のことで大盛り上がり！！楽しかった！

ついに・・・！ホストファミリーと面会。緊張しました。でも、Mother が中心に話しかけてくれてとても和めました。プレゼントもとても喜んでもらえました。それから、出かけよう！！といわれたのでついでに、オーストラリアのプレゼントをたくさんもらえました。Very happy！！

8月18日(土) 安福 友紀



昨日まではみんなと一緒にだったけど、今日からはみんな別々なので不安でした。私は一つの家に2人で行ったので、もう1人の人に頼らないように心がけていました。

朝から買い物に行きました。買いたいと思うものがあつたけど、お金の使い方がわからなくてホストファミリーの人に聞くと、

優しく教えてくれて買うことができました。

博物館に行って広さにビックリしました。そこには恐竜の骨などがあって、説明などの字は全部英語だけど見ているだけでも面白かったです。夜にはみんなで1人1枚ピザを作りました。用意もみんなだし、作り方も教えてもらい、とっても楽しかったです。それまではあまり会話がなかったけど、みんなとピザを作って、会話が少し弾んで楽しかったです。

最初は全然しゃべれなかったけど、一日一緒にいて少ししゃべれるようになって、とっても楽しかったです。

8月19日(日) 太田垣 彩子



みんなとかたまって行動していた私にとってはとてもドキドキした1日でした。ハンナのお母さんとハンナとアーロン(ハンナの弟)とでショッピングに出かけました。見たことのないおもちゃがいっぱい売っていたり楽しかったです。その次にお昼を食べてから海に行きました。そこには冬なのにサーフィンをしたり、水着で普通に浜辺を歩いている人が多くて“私はタートルネックなのに”と思い、ちぐはぐな感じがしました。

それからマーケットに行きました。向かいで海賊のショーをやっていたり、いろいろ

ろなお菓子・オーストラリアのショップ・色とりどりのろうそく・ブーメランなどの雑貨が売ってて、映画の中に入ったみたいでとても楽しかったし、いい経験をさせてもらいました。オーストラリアにいるんだなって思ったらとても感動しました。

明日も楽しみです。

8月20日(月) 鶴岡 美由紀



ガバナースターリン高校の見学をしました。学校に行く前にお菓子とジュースをくれました。学校に持って行っていいそうです。アクセサリーもつけていました。車の中で化粧をしていてビックリ！

ギター演奏を聴いた後に私たちも「ズッコケ男道」と「上を向いて歩こう」と「ラジオ体操」をしました。みんなもしてくれたので嬉しかったです。学校見学では、日本にない授業がたくさんありました。その後は、動物園でコアラにふれたりカンガルーに餌をやったりウォンバットを抱いたりして楽しかったです。

そして、家に帰ってスワン市のレセプションに行きました。そこでも出し物をしました。でも、デッキの調子が悪くて始めはうまくできませんでしたが、デッキを変えて最後にもう一度やらせてもらいました。家族が“とてもよかったよ”と言ってくれ

たので嬉しかったです。今日はとても楽しかったです。

8月21日(火) 井澤 沙知

今日はお世話になったホストファミリーとお別れの日。4日間でいろんな体験をさせてもらい、日本とは違った生活・文化にふれ、英会話に苦労したりと日本ではできないことをたくさんすることができました。感謝の気持ちなどが込み上げてきて、泣きそうになりつつも大きく手を振りました。

その後、パース市内で買い物をしました。いろいろ食べたり買ったりしたけど、私はコインの使い方がいまだにさっぱりわからず札で払うばかり...

1時間はあっという間でした。空港に着き、とうとうパースともお別れ。現地のガイド(通称タケちゃん)とも別れて「また来るから!」と言い残し飛び立ちました。

チャンギ空港では、買い物をする時間がありました。行きはほとんど買い物をしなかったけど、帰りは積極的に買い物ができて、「成長したなぁ」とみんなで実感しました。今日はたくさんのお別れをしたり、自分たちの成長ぶりを確認することができた1日でした。

8月22日(水) 政平 純一

みんなは全てを完ぺきに成し遂げて、疲れをとるためにぐっすり眠っていました。福岡さんやみんなとも、あと少しで別れて



しまうのかと思いました。そして、関空に着いた飛行機から降りるととても暑くて、ちょっと進むと日本人がうじゃうじゃいました。あ～、日本に帰ってきたんだあ～と実感しました。さらに進むと松浪さんたちが迎えてくれて、福岡さんとも別れてすぐにバスで出発しました。誰かが言っていたけど、外国人が日本へ来て初めて見る景色が工場だらけで、錆びていて、汚そうで、とても外国人を迎える景色じゃないなあ～と思いました。ついでに思ったことは、日本とオーストラリアの面積は全然違うけど、やっぱり日本は緑が少ないなあ～と思いました。木を植えているだけで緑があるんじゃないかと、パチンコなど必要ないものをなくしてもっと緑を増やすべきだと思いました。

最初はある程度実感がなかったけど、最後には全員が行って良かったな、また行きたいなと思った。





楽しかったオーストラリアの8日間

田中 良宜



レセプションでホストファミリーと

僕は最初、この派遣事業に参加したくないと思っていました。英語苦手だし、他に誰が参加するのか分からないし、親にお金かけさせたくないし、でも何より「楽しくない」と僕は思っていました。そんな中、僕はほとんど無理やりに参加させられました。でも僕を待っていたのは「楽しくない」オーストラリアではありませんでした。

まず、数を重ねる事前研修で不安だった英語を話すことに自信が持てました。それは、ALTの先生を呼んでくれたり、オーストラリアで役に立つ英語を丁寧に教えてくれたからです。それに、事前研修を通して、支え合える仲間ができました。みんなとはすぐに仲良くなり、男子と女子、稲中と北中分かれることなく全員が友だちになりました。そして、その仲間とするダンスや歌は本当に楽しく、事前研修がとても楽しく感じました。

オーストラリア派遣のときはとても緊張しました。でも事前研修で学んだ英語と心強い仲間のお陰で、僕の緊張はほぐれていきました。

最初のファームステイでは、工業化が進んでいる日本ではできない自然体験ができました。その中で、動物とふれあったり、現地の人と会話をしたり、一緒に遊んだり、とても貴重な2日間でした。ファームは準備運動とか言っている人もいたけど、僕はそうは思いません。これから一生僕の大切な思い出になると思うし、できるなら何回でも行きたいと思っています。それくらい僕の中で大きな存在となりました。でもその分、別れのときが本当につらかったです。

そして次はホームステイでした。このオーストラリア派遣のメインであり、僕の緊張の原因でした。僕のホームステイの相手のお父さんは軍人だと聞いていました。だから緊張も不安もあり、少しだけこわいと感じていました。実際ホームステイの方に会ったときは、とても優しい人たちで、僕にいろいろ気遣ってくれ、笑顔の絶えない家族でした。それでもやっぱり最初はなじめず、動揺ばかりしていました。でも、2日目、3日目にはたくさん会話できるようになっていて、あの時緊張していた自分がとても恥ずかしく思えました。それからは、何のトラブルもなく、優しい家族に包み込まれながら楽しい日々を過ごしました。

そして、僕が一番心に残っているレセプションです。この日は久しぶりに友だちと会えたのもあって、かなり気持ちが高まっていました。今まで歌やダンスを練習してきたのも、この日のためです。でも、僕たちはダンス中、予想外の出来事に巻き込まれました。そのため、僕たちの出し物は一時中断、会場にも重たい空気が流れていました。でも、もう一度したいと思う僕たちの強い気持ちによって再びやらせてもらえました。そのお陰で会場全体が盛り上がり、みんな大きく拍手してくれました。僕たちの出し物は大成功でした。

そんないろいろなことがあるオーストラリア旅行だったけど、今となれば本当に大切な思い出です。あの時、「楽しくない」と思っていた自分に反省しています。そして、嫌がっていた僕に派遣をすすめてくれた家族に感謝しています。もちろん、引率して下さった方々やこの派遣にかかわり、手助けをしてくれた人たちにも感謝しています。みんなのお陰で、僕はたくさんのことを学び、たくさんのもを手に入れることができました。

生きている中で考えたらとても短い間だったけど、良い仲間と過ごした、本当に「楽しい」オーストラリアでの8日間でした。みんな本当にありがとうございました。

保護者の目から見た派遣事業

「中学生海外派遣事業に参加させて」

田 中 ま さ 系

「また、行こうな！」自宅での第一声が満面の笑顔で発せられた。嬉しい言葉がオーストラリアでの一週間を表していて、これ以上ない最高のお土産でした。

ミルクウェイ、南十字星、澄んだ空気のファーム。単語を並べながらも一生懸命に意思疎通をはかっていたのホームステイ。外貨でのショッピング。レセプションでの挨拶やダンス披露等の体験が心の宝物としていつまでも残ることでしょう。

2年前にこの中学生海外派遣事業を聞いた時から、是非に参加させたいと子どもの意思に関係なく決めておりました。参加申し込みに始まり、面接、説明会、事前研修とある中で、消極的だった子どもが徐々にまわりに打ち解け、参加仲間との絆を深め、楽しそうに準備を進めていく様子が最初のステップアップ。出発前の荷物の用意をしながら、本当に大丈夫かしら？と不安を感じつつ「子離れ」をしなくてはと自身に言い聞かせたのが二つ目。

そして、滞在期間中には何段階ステップアップ出来たでしょうか？

子どもの成長を感じることが出来るチャンスに恵まれたことに感謝いたします。また、この事業を企画推進、サポートしてくださいました皆様方に心よりお礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。



オーストラリア最終日、みんなでピース！

私はこの8日間は楽しいことや初体験、学ぶことの連続だったと思います（不安もしばしば...）。全部伝えたいのですが、書ききれないほど多いので特に心に残っていることを書こうと思います。

まずは飛行機のこと、実は私は飛行機が初めてでした。想像以上に便利で、ゲームをしたり音楽を聴いたりできるので、飛行機の時点で既に感激してしまいました。パースに着くのに10時間35分かかったけど、私に疲れはなく、ただオーストラリアの夜景に「スゲー！！」というばかりでした。

私が初めてオーストラリアの地を見たときの第一印象は、「なんか平べったい」でした。

次の日のファームステイでは、日本とはスケールの違う広大な素晴らしい大自然が私たちを待っていました。それに何と言っても星が本当にキレイで、息が詰まるくらい一面が星でした。ポニーに乗ったり、乳しぼりもしました。山羊に牛乳をあげたらバケツを上あげすぎたのか、「飲みにくい」といわんばかりに怒って牛乳をかけられてしまうハプニングがありました。これも良い体験です。ファームでは、自然や動物の素晴らしさや大切さ

を学び、また積極的に何でも参加すると自分も成長するし、周りにもプラスになることがわかりました。

3日目からいよいよホームステイが始まります。私はそれほど不安はなかったのですが、実際にホストファミリーに会ってみるとパニックでした。ノニーにはショッピングや海、パーティーといろいろな場所に連れて行ってもらいました。ここで日本との違いを発見しました。私はオーストラリアへジャンパーまで着てきたのに、現地の人みんな半そでで驚きました。それに冬なのに海とか考えられなかったです。でも、とっても水が青くて気持ちよく入れました。とても楽しかったのですが、私は日本語をしゃべりたくて仕方がなかったのもので、公衆電話の使い方を教えてもらって、引率者の方に電話してしまいました。実際に行ってみたらそれくらい日本人や日本が恋しくなります。家ではたいていテレビとかを見ていました。私は折り紙をしたり、写真を見せたりと自分から勇気を出して誘ってみました。折り紙では不器用な手つきだったけど、できた時に喜んでくれたので嬉しかったです。あと、お餅を持って行って、茹でて砂糖・油につけて食べました。ノニーは「美味しい！」とってくれたけど、ノニーのお母さんと妹は少し顔をいがめていました。食感がダメだったそうです。ご飯のことですが、私は米を食べないのだと思っていたけど、毎日米は食べました。豆とか使った料理で美味しかったです。ご飯は美味しかったのですが、私が驚いたことは、いっぱいマクドナルドへ行くということです。ご飯を食べたにも関わらず行くので、4日で3回も行きました。あまり日本とは変わりませんでした。あと、おやつを常に食べているのは驚きでした。くれるので「Thank you」といってもらうのですが、心の中では太らないかととても心配でした。

レセプションの出し物では、途中まで順調に進んでいたのに、突然音楽が切れてしまい焦りました。3回目もテープは鳴らなかったので、とりあえず後回しにしたけど、やっぱり今まで何度も練習したから「これだけはやりたい！」って思ったので、別のデッキを持ってきてチャレンジしました。すると、とても盛り上がり、一緒に踊ってくれる子もいてとても楽しかったし、感動しました。この時は、みんながさらに団結したと思います。

私はこの海外派遣を通していっぱいのことを学びました。特に私が感じたことは、感謝の気持ちです。私たちがこうやってオーストラリアでいろんな人とふれあい、たくさんの体験ができるようにと考えてくださった方や、オーストラリアで出会ってとても優しく接してくれたホストファミリーや友だち。またファームステイでお世話になったジョンさんやバスを運転してくださったハーワードさん。現地のことをたくさん教えたり、いっぱいいろんな話をしすぎて仲良くなったタケちゃんと福岡さん。私たちを見守ってくれた団長を始めとする大人の方々。そして、陰で支えてくれた私の親。無事に帰ってきたことなど全てに感謝の気持ちでいっぱいです。14歳でこのような体験ができてとても幸せだと思いました。まだ英語は聞き取れないけど、これからもっと勉強してしゃべれるようになり、まずもう一度ホストファミリーやジョンさんとたくさん話をしたいと思います。それに、英語に関係のある職につきたいと改めて感じました。たくさんの体験をし、この先自分が

どうしたいのかがハッキリとした、とても前向きな中身が詰まった8日間でした。ありがとうございました！！

保護者の目から見た派遣事業

中学生海外派遣事業に参加させて

井澤 みどり

このたび中学生海外派遣事業という貴重な事業に参加させて頂きました。

娘が「オーストラリアに行きたい！」というのはわかっていましたが、申し込みは躊躇しました。受験勉強の大切な時期に時間は取られるし、準備も大変だろう...など、親の方が考え過ぎてうやむやにしていましたら、「お母さん、絶対行くから！！」と強い意志をぶつけられました。遅ればせながら申し込み、面接・作文に受けました。実際、準備は大変でした。学校の宿題や塾の勉強、荷物の準備...、しなければならぬことが山積みでした。しかし、次々とこなし、とても充実している様子でした。

英語に関しては「何とかなるだろう...！！」と、母娘ともほとんど心配はしていなかったのですが、向こうでは言いたいことは伝わっても、言っていることが聞き取れないことと、日本語がしゃべりたくて添乗員さんに電話をかけてしまったそうです。

出発する数日前、星空を見ながら「オーストラリアで南十字星を見ておいで！！」と話していましたので、「南十字星を確認したとのこと」と連絡を頂いたときは「やったぁ！良かった！」とひそかに感激しました。ファームの夜は最高だったでしょう。

帰国後は日々の生活に追われ、だんだんオーストラリアのことは話さなくなってきましたが、実際に自分の目で見、耳で聞いたことが心の中にいっぱい詰まっているので、忘れることはないでしょう。

最後になりましたが、この旅でお世話になりました方々に深くお礼申し上げます。ありがとうございました。



かけがえのない8日間！

大西 史記



ホストファミリーとレセプションで

僕は、この海外派遣事業に申し込んで、本当に良かったと思います。

1年生の2学期の始業式の時に、オーストラリアに派遣された先輩の報告がありました。そのときは「外国なんて…」と、自分とは全く関係のない存在だと思っていました。しかし、稲美町海外派遣事業の派遣生募集の案内が配られ、悩んだ末、お母さんに「僕、オーストラリア行きたいねん」と言いました。反対もされましたが、最後には行くことを許してくれました。

このあと、異国の地で、素晴らしく、そして、楽しい充実した8日間が待っていることは、まだ知る由もありませんでした。

そして、その選考会に集まったメンバーは、10人中10人。正に運命的な出会いであったと思います。

選考の結果、全員、オーストラリアに行くことができることになりました。

そして、何度も事前研修をして、気候、文化などさまざまなことを学ぶと共に、出し物の練習。そして何より英語研修など、たくさんの準備をしてきました。その間に、10人の仲間たちとも打ち解け、団結力も高まっていきました。出発2日前の結団式では、多く

の方々に集まって頂き、ことの重要さを改めて感じました。

そして、運命の15日早朝、15歳夏のメインイベントと言っても過言ではない、この事業がスタートしました。海外渡航初めての人たちも多く、空港に向かうバスの中は異様な盛り上がりを見せました。そして、飛行機が日本を飛び立ち、上空から見る日本に感動しました。飛行機はシンガポールを経由しオーストラリアパースへ。空港に着いたときは、すでに深夜1時。そのままバスでホテルに向かいました。そこで、現地ガイドの、武田さん(タケちゃん)と出会いました。ホテルに入り、これから待っている旅に思いをはせながら就寝しました。

次の日、まず兵庫文化交流センターの小川所長を表敬訪問しました。そこで、オーストラリアについて、多くのことを学びました。そのままバスでファーガソンファームへ。オーナーのジョンさんと共に、大自然の中でのびのびと活動しました。心配していた天気もよく、夜には降るような星空、流れ星や南十字星もくっきりと見えました。

次の日も午前中はファームで活動しました。ファーム内のレストランで最後の昼食をとったあと、スワン市へ100kmのバスの旅。これからホストファミリーに会いに行くというのに、バスの中はハイテンション。不安もかき消すことができました。

ここからホストファミリーとの生活が始まりました。ホストファミリーの家には、馬が2頭、犬、猫が3匹、ニワトリが2羽、ハムスターが2匹いて、とてもびっくりしました。そこで、普通の旅行では体験できないオーストラリアの生活習慣にふれることができ、とても良かったです。

ステイ4日目、ガバナースターリン高校へ行き、久しぶりにみんなと出会いました。学校見学をした後、動物園へ。ここでは、多くの動物たちがのんびりと過ごしていました。カンガルーに餌をあげたり、コアラにさわったり、貴重な体験ができました。その夜、スワン市主催のレセプションがシティーホールで開かれました。ここで、他のホストファミリーと出会いました。事前に練習していた出し物は、CDが止まるというハプニングもありましたが、最高の形で終えることができ、10人の団結力がさらに深まったと思います。

ホストファミリーとの別れの日、それはとても悲しかったですが、悲しみをこらえバスに乗り込みました。そして、パースの町が一望できるキングスパークに行きました。タケちゃんのすばらしいガイドで、キングスパークの豆知識をたくさん知りました。その後、パース市内で買い物をして、帰国の途に着きました。「もう一度オーストラリアに行きたい」帰りの飛行機の中で、そう思いました。日本に到着し、役場で解団式をしたときは、もう終わったのか…といった感じでした。

オーストラリアで、学んだことは今後の人生の一生の思い出になると思います。僕は、団長はじめ、この事業にかかわってくださった多くの人に感謝します。

本当に充実して、楽しい8日間を有り難うございました。

保護者の目から見た派遣事業

15歳、夏。旅立ち

大西 とも子

15歳、夏。酷暑の日本を脱出して、一路、オーストラリアパースへ。親元離れて旅立つのは、今回の海外派遣で8回目。自立の階段を一步一步、上がっていく我が子に頼もしさを感じています。

ある日突然、「僕、オーストラリアへ行きたいねん。」何の前触れも無く、言い出しましたので、正直申し上げて驚きの一語に尽きました。海外派遣事業については、稲美町広報等で存じておりましたけれど、“まさか我が子が”という思いが先行して、思わず「えー、だいじょうぶなん？」と、息子の意に反した言葉を投げかけたと記憶しております。

彼の勇気に唖然とするばかりでした。よくよく聞いてみると、実際に英語圏に行って生の英語にふれたい。日本とは違う文化、習慣、気候など、色んなことを知りたい。そのためにも絶好のチャンスであるから、ぜひ参加したいと申しました。彼の意思は固く、OKをだしました。準備期間が長く感じ、心配したり、やきもきしたりしたこともありました。今、改めて思いますに、“何事も案ずるより生むが易し”であったと実感しております。

帰国して空港の出口から、スーツケースを引っ張りながら出てきた我が子を見て、なんときらきらしていたことか。日常生活の中で、このような満面の笑顔を久しく見ておりませんでしたので、正にこの時、参加させて頂いて本当によかったと思った瞬間でした。

帰宅してからも、オーストラリアでの思い出話はずきません。ファームステイでの広大な大地と自然の豊かさ。ホームステイ先での孤軍奮闘ぶり。明るくおおらかなホストファミリーが、温かく見守ってくださったこと。シティーホールでのスワン市主催のレセプションでは、派遣団の仲間と心をつなぐことで最高のパフォーマンスができたこと。そして、団長様はじめ先生方、9人の仲間と巡り会えたことは、何ものにもかえがたい大きな宝物になったこと。思い出の種は尽きないといった感じで、話は延々と続きます。8日間が、いかに充実し、楽しく、意義深いものであったかを感じ取ることができました。

思春期に見聞した異国での生活。すべてが、彼にとって生涯忘れることのできない青春の1ページとなったことでしょう。成功したことも、失敗したことも。何もかもが、無駄ではないこと。折に触れて感じることでしょう。

オーストラリアの星を眺めながら、外から見た日本を思う日があったといいます。我が子の心に去来したものは何だったのか、また追々話を聞いていきたいと思います。

最後に、今回の海外派遣事業につきまして、お世話して下さいました全ての方々に感謝申し上げますと共に、今後ともよろしく願い申し上げます。

大過なく、8日間を過ごさせて頂いたこと、今は、ただただ感慨無量です。ありがとうございました。



My best treasure ~僕にとって一番大切なもの~

原 よし ひろ
由 洋



ホストファミリーと一緒に！！

僕にとってこのオーストラリア海外派遣事業は一番大切な宝物となりました。オーストラリアに向けて出発する前は、自分の英語は通じるのだろうかという不安でいっぱいでしたが、当日、一緒に行くみんなと会ったときには大きな期待を持って出発することができました。

オーストラリアに着いたときは息が白くなるほど寒かったので驚きました。けれども真っ暗だったので、あまり日本とは違いを感じませんでした。

次の日は、午前中に兵庫文化交流センターで小川所長のお話を聞きました。その話の中では、日本とオーストラリアの関係や、これからは自分たちの国の文化をより深く学ばなければいけないということがわかりました。今までは日本の文化についてあまり興味はなかったけれど、しっかりと学ぶことが必要だと思いました。

午後はファームで活動です。とにかく広くて緑がどこまでも続いていて、とても感動しました。そして何より空気がおいしかったです。カンガルーや牛を見たり、ポニーに乗ったりと、さまざまな体験ができました。そして夜にはキャンプファイヤーを囲んで星を眺

めました。日本とは比べ物にならない数の星が輝いていて、流れ星や日本では見られない南十字星が見れて感動しました。オーナーのジョンさんがどんな時でも英語でわかりやすく説明してくださったので、少しずつ英語に慣れることができました。このファームステイはホームステイに向けての心の準備をしっかりとできる最高の機会でした。

そして、一番楽しみにしていたホームステイの時がやってきました。最初はとっても早い英語が聞き取れなかったけれど、「ゆっくりと話していただけますか」と言うと、僕にも理解できる簡単な英語でしゃべってくださったのがとても嬉しかったです。このホームステイで一番心に残ったことは、自分で進んで話しかけることが必要だということです。出会って初めのころ、会話はあまり弾まず、短い単語で話しているだけでした。このままの状態が続くのは嫌だと思ったので、積極的に自分の気持ちを伝えようという姿勢に切り替えました。すると、会話が増えるとともに、英語を話すのがとても楽しくて仕方がなくなりました。会話が増えると自分の知らない単語が出てきて、説明が理解できずに何度も質問を繰り返したけれども、電子辞書などを使って親切に教えてくれたミッチェルやお父さん、お母さんには本当に感謝しています。

また、休日にはビーチに連れて行ってもらいました。冬なのに泳いでいる人がいたのでビックリしました。そのことをホストファミリーに伝えると、「泳ぐ？」と聞かれてビックリしました。水着は家から古いものを持ってきていたので、それを使いました。初めて泳ぐインド洋の海はとてもきれいで冷たかったです。そして、塩辛いことも確認しました。このようなことはめったにできないと思うので、準備をしてくださっていたホストファミリーの方に本当に感謝しています。このホームステイでは生活英語を学ぶこともできて、本当にとっても良い経験を積むことができました。

最終日の夜のレセプションでは、今まで事前研修で練習を重ねてきた踊り、体操、合唱をしました。何回もハプニングがあって、少しあきらめかけたときもあったけれど、みんなの強い意思と周りの方々の努力で最後まで頑張り完全燃焼できました。ハプニングがあって雰囲気が悪くなるかと思っていたけれど、最後にはみんなが参加して本当に感動してくれたのでとても嬉しかったです。これもオーストラリアならではのことでないかと思いい、やりきったという思いとオーストラリアはとてもフレンドリーだという2つのことに感動しました。

帰国の日、ホストファミリーとの別れはとても辛かったです。しかし、必ずもう一度会いに行くという約束をして、感謝の気持ちもしっかりと伝えて別れることができました。

帰りのシンガポールでの乗り換えの時には、みんなや僕自身も大きく成長したことが感じられました。行きのシンガポールではレジに近づきもしなかったけど、帰りにはみんなたくさん買い物をしていたからです。みんなの目には自信が満ち溢れているように見えました。その成長する機会を与えてくださったたくさんの方々に感謝し、今回学んだことをこれからの将来に役立てていきたいと思います。

Thank you very much for everything!

保護者の目から見た派遣事業

「ホームステイによせて」

原 けい すけ
敬 介

ある日「ホームステイに行っていない?」「行きたければいけば~!」で始まったオーストラリアのホームステイ狂想曲。パスポート申請の書類準備から始まって衣類・小物の購入からスーツケースの購入(私が使っていたスーツケースの故障が発覚し急遽買換え)とドタバタと過ぎて行き、結団式・出発・帰国・解団式そして8月31日の反省会でフィナーレを迎えた。

途中、楽しそうに事前学習や準備をしていたけれど、出発1週間前くらいになると一人でのホームステイということに心細くなったのであろうか、不安そうな表情を時折見せることもあったが、当日元気に出て行き、1週間後楽しかったと帰って来た。

出発前夜、「解らなかつたらハッキリ解らないと言いなさい。解っているのか解っていないのか判らないと向こうも困るから。」とアドバイスした。この言葉が効いたのかホストファミリーの方たちが忍耐強かったのか、比較的意思の疎通が出来たようで、初めての海外・初めて見るオーストラリアに感動し、楽しく過ごせたようであった。

いろいろ不安もあったと思うが回りが、全て異国の人の環境の中に入り込み、「英語で話しかけられてそれに答える勇気」、「英語で話しかける勇気」を実践したことにより、物事をポジティブに受け止めることが出来るようになったのではないかと、いわゆる「何事も最初の1歩踏み出す勇気があれば道が開ける」ということをおぼろげながらも体感したのではないかと期待している。国が違えども、言葉や生活環境・習慣が違えども理解し合うことは可能であること、見知らぬ中に一人でいることの心細さ、気に掛けてくれる人がいることの安心感、人の温もり等を感じてくれたのであれば有り難い。

「オーストラリアはどうだった?」との問いかけに「感動した!」の一言が返ってきた時は、「今回の派遣事業に参加させて本当に良かった。」「参加させた甲斐があった。」と非常に嬉しく思った。

見るもの聞くもの初めて尽くして戸惑いも数多くあったと思う1週間の中で、どこまで感じたのかは解らないけれども、この経験が人間としての成長の足がかりになることを期待している。親としては今回の感動を忘れずいて欲しい。感動が新たな活動・活力の原動力になり得ることを気付いて欲しい。この経験がグローバルな視野を持つこと、「1歩踏み出す勇気」を持つことのきっかけになればと願う。

派遣事業におかれましては団長さんほか引率していただいた方々、現地の情報を逐次報告いただいたスタッフの方々、派遣事業が円滑に進むよう御尽力いただいた方々に心より御礼申し上げます。真に有り難うございました。



ホストファミリーと

オーストラリアに行く前の夜、私は不安と緊張と楽しみでなかなか寝付けませんでした。なので、出発の日はとても眠く、こんなんで大丈夫かなと心配でした。でも、飛行機の中でずっと寝ていたのでもスッキリできました。

1日目のファームステイでは、すごく広大な土地だったので驚きました。しかも、行く途中の道で牛や馬を放し飼いでいるのをたくさん見て、牛たちもこんな広いところで成長できたら幸せやなと思いました。私は、ポニーに乗れたことが嬉しくて、重い私を乗せてくれてありがとうって言いたかったです。そして、ファームを運営しているジョンさんという人がとてもかっこいい(内面的に)人で、すごく尊敬しました。例えば、夜道はとても暗くて私たちだけだと懐中電灯なしでは歩けないのに、ジョンさんは何もなしで走って行動できてしまったり、何か作業をするのもとても手慣れていて何でもやってしまうし、作業中ハブニングがあって指をケガして血が出ても全然痛そうじゃなかったり、クールなのに優しくったり、私は“ジョンさんみたいになろう!”とファームステイをして強く思いました。このファームステイでみんなの仲がぐっと深まりました。

そして次の日からいよいよホームステイ。ホストファミリーとご対面のとき、いくら探

しても私のホストファミリーの子がおらんへんと思ったら、なんとお母さんが風邪をひいて私のホストファミリーが変わっていたのです。最初はショックで、ここまで来たのに...と思いました。でも、新しいホストファミリーの方がとても優しく接してくれて、安心できました。最初に私がホストファミリーに話し掛けた言葉は“ How can I call you? ”です。そして、お母さんをママ、ダニエルをダニエルと呼んでと言われたのですが、結局お母さんのことをママとは呼べなくて、少し後悔しています。

1日目、晩御飯がフィッシュ&チップスというオーストラリアのファーストフードで、美味しかったのですがとても油っこくて、すぐにお腹いっぱいになりました。そして、夜寝るときは、すごくホームシックになって、日本が恋しくなっていました。

ホームステイ2日目はショッピングに連れて行ってくれました。どの建物もとてもオシャレで、ディズニーランドみたいでした。アクセサリとか服は、結構はやっている物が一緒だったので買いやすかったです。お昼御飯は HUNGRY JACK'S というハンバーガー屋さんのチーズバーガーのセットを買ってもらいました。味は日本のより少し濃いくらいで、量もちょうどよく食べやすかったです。その日は歩き回ったので足がとても疲れました。なので、夜はぐっすり寝ることができました。

ホームステイ3日目は、ホストファミリーのおばあさんとおじいさんの住んでいる家に行きました。お昼ご飯にラザニアにミートソースをかけたものを食べたのですが、それがとても美味しかったので日本でも作りたいと思いました。帰りに湖みたいなダムみたいなところに行ったのですが、雨が降っていたのであまり見れなくて残念でした。

そして最終日。お別れするのがとても寂しかったです。最後は抱き合ってお別れを告げました。そして、本当はホームステイするはずだった子とも会えたので良かったです。ダニエルとその家族の人に4泊5日も英語の苦手な私たちを泊めてくれて、心の底からありがとうと言いたいです。

私にとって海外派遣は感謝とありがたみをよく学べたものでした。ホストファミリーの方が気を遣っていろいろしてくれたり、オーストラリアにいて日本が恋しくなったとき、初めて家族や友だちのありがたみを学べました。とても充実した7泊8日の旅でした。

保護者の目から見た派遣事業

「中学生海外派遣事業に参加させて」

吉田 陽子

我町に中学生海外派遣事業があることを娘が知ったのは、中1の時。広報に掲載された写真を見たときだったと思います。当時、バスケットボール部に入り、部活一筋の生活でしたが、「先輩の行ったオーストラリア、私も絶対行きたい!」と、夢を膨らませていました。中3になり、申し込みを受理されてからは、忙しい日々でしたが、目的を持っていましたので、とても楽しそうに研修に参加し、準備をすすめていました。町からの派遣という大きな役割を与えて頂いたことで、参加される友だちやサポートして下さる関係者の方々と貴重な時間を共有し、研修で多くのことを学んでいたように思います。

オーストラリアのファームでは農場のジョン氏の生き様が強く心に残ったようでした。遙か彼方の未知の地で、愛情いっぱい子どもたちを迎え、誇りを持ってファームを営んでおられる方がいる。その出会いに親として感謝です。

ホームステイでは、突然のホストファミリーの病気というアクシデントがありましたが、急な変更に対応して下さる別のファミリーのお陰で予定通りのホームステイを経験させていただくことができました。現地での様子はメールで詳細が送られてきていましたので、本当に「世界はひとつ!」を実感しました。

レセプション等で練習してきたダンスや歌を通して、心を尽くして努力すれば、人と人は通じ合い、分かり合えることを気付かせてもらえたと思います。海外体験は実は我家では娘が第1号です。彼女の旅立ちを見守ることで家族みんなが共にオーストラリアへの夢を共有し、実感することができました。

本当に多くの方々の協力や支えがあってこそできる海外派遣事業だと思いました。貴重な体験をさせていただいたことに心から感謝します。



一生の思い出に残った

政 平 じゅん いち
純 一



スワン市主催のレセプション、みんなで記念撮影！

最初の一日は、飛行機に乗るなんて久しぶりだからとてもわくわくしていました。そして、飛行機が飛ぶととても日本が小さく見えました。沖縄なんかも見えました。は～、このまま時間が過ぎないほうがいいなあと思ってしまいました。

3時間ぐらい飛行機に乗ってチャンギ空港に着きました。もう日本人なんていなくて、ちょっと不安になりました。少し時間があるので40分間ぐらい自由行動をしました。でも、ちらっとお土産物売り場を見て15分ぐらい前にはもう全員集合していました。初めからすぐに集合できることは凄いとされたので、なんか嬉しかったです。そして、いよいよチャンギ空港からオーストラリアまでの飛行機に乗りました。さすがに今日2回目だったので飛行機は慣れていたけど、夕食のカレーがとても辛くて、水、水、水と言っていました。これがシンガポールでの辛さかと思いながらも異常に辛かったです。

そして、夜なので眠っていると、いつの間にかオーストラリアの空港へ着いていました。でも12時だったので、めちゃくちゃ眠たかったです。そして、バスに乗ってホテルへ向

かいました。半分寝ている状態で乗っていました。ホテルは意外にきれいで、部屋に入るとすぐにベッドへ飛び込みました。長い間座っていたのと、かなり歩いたせいでくたくたでした。初めての目覚ましをかけて“よしOK！”と思いきや、2日目の朝になるとひとつも鳴りませんでした。とてもショックでした。ずっと2時30分のままでした。朝も夜も思ったことは、シャワーは手に持つんじゃないかと上から出るもので、あゝここが日本とオーストラリアの違いかと学びました。

そして、次はファームステイです。レストランで食事をしたり、その後はトランポリンやバスケットボールをしました。トランポリンはとくに難しく、なぜか恐がってしまいました。次に馬に乗ったりしました。日本ではできない貴重な体験をいっぱいさせてくれました。夜には星を見ました。日本では見ることのできない南十字星を見ることができました。でも、あまり分かりませんでした。ついでに、ザリガニを捕まえる仕掛けを池に設置しました。

3日目には男子で6時に起きようといって早朝に朝日を見に行きました。絶景で写真を撮ってもらいました。そして、バスケットボールもしました。田中君は本気でやっていたので、“さっすが～”と思いました。みんなで「2007」と彫った看板を立てました。上出来でした。これからもずっと引き継いでほしいです。みんなでこのままファームステイをしたいなあ～と言いながらホームステイ先の家族と対面しました。

家に行くときの車の中でいろいろ聞かれたけど、しゃべるスピードが早くて何かわからなかったです。僕が一番良いなと思ったのは、僕より小さい子どもですらあたり前だけど英語を話すことができるということです。

4日目はホストファミリーとショッピングに行きました。日本より何もかも高いなあと思いました。家族の分は買ったし、お昼を食べることになって「清水」というお店があったので行ってみると日本人がいました。とても嬉しかったです。その後、海へ行きました。日本の沖縄よりもきれいでした。写真！！と思ったらカメラを忘れていて、肝心なところで忘れる自分がだめだと思った。

5日目は雨だったのでごろごろしていました。

6日目はガバナースターリン高校を訪問しました。そこではどんなことを勉強するのか、何をしているのかを教わりました。そして家に帰りました。その後、市役所に行きました。今度はレセプションです。ダンスは思わぬハプニングがありながらもあきらめずに踊ることができました。何かをやり遂げたというとても強い気持ちがみんなに広がりました。

7日目と8日目は日本へ向けて帰りました。

とても寂しく、また絶対行くぞと言って良かったと盛り上がったのであった！

保護者の目から見た派遣事業

「保護者からの派遣事業への観点」

政 平 ^み美 ^ち智 ^こ子

この事業に参加させようと思った意図は、日本以外の国で英語を試してほしいなあと思
い、子ども自身に聞いてみると「行ってみようかな」という軽いのりでした。親の思いと
子どもの思いとは少々誤差はあるものの嬉しい反応でした。

行かせるにあたっては、昨年に参加された方に細かいアドバイスをいただいたり、何回
も役場の資料を読み返したりと、親としてできることを配慮したつもりです。

稲美中から5名、北中から5名と、1回1回の事前研修を重ねる度に交流が深まり、と
てもほほえましく感じる一瞬でした。

さあ、一週間の始まりです。飛行機が無事に着くのだろうかとか、ホームステイ先でフ
ァミリーと仲良く英語で会話ができているのだろうかとか心配だらけでしたが、一日2回、
役場からのメールで日々様子がよくわかり心癒されました。

帰国後、とてつもない広さのホームステイ先の話を知ったり、自分が撮った写真の説明
を知ったりと、いろんな経験をさせていただき、日本の生活とは全然違う世界を体感でき
たことは、子どもたちの将来の糧になり得る事業であったのではと感謝しております。

改めまして、お世話いただきました方々にお礼を申し上げたいと思います。

本当に有り難うございました。



あっという間の8日間

足立 明日香



初めて乗る飛行機に感動！シンガポール航空の客室乗務員さんと

オーストラリアでの8日間は一生忘れることのない思い出になりました。

行きの飛行機の中は期待もあったけど不安の方が多かったです。初めて乗る飛行機なので、窓から見える景色に感動したりしてなかなか眠れませんでした。そして、長かった飛行機も無事に終り、ホテルに着いたときに自分の息が白いのを見て「冬だぁ〜」って思いました。

2日目の午前中は小川所長さんのお話を聞いて、日本の文化を大切にしないとイケないなあと思いました。

そして、ファーガソンファームに着いて、どこを見ても緑でとても広くてビックリしました。トラクターに乗せてもらったり、稲美町の方角に向けて立てる看板を作ったりしました。夜はキャンプファイヤーをして星を見ました。たくさんの星が見れてとてもキレイでした。

次の日はポニーに乗ったり牛の乳しぼりをしたりしました。そして、あっという間にファームステイの2日間が終わってしまいました。日本ではできない貴重な体験ができてとてもよかったです。

そして、いよいよホストファミリーと対面！！自分の英語が伝わるかなあとか、仲良くなれるかとか、とても不安でした。でもみんなと別れた後の車の中でいっぱい話しかけてくれて会話もできたので安心しました。その日の夜はお土産交換をしました。次の日の午前中はショッピングに行きました。いっぱい買ってもらいました。いろんなものがあって楽しかったです。午後はキングスパークに連れて行ってもらいました。きれいな花とかがあってよかったです。その次の日はホストファミリーのお父さんの眼鏡を買いに行きました。そこで日本人と会ってしゃべりました。神戸の人で、オーストラリアのことをいっぱい聞かせてくれました。その人と別れてから公園みたいなところでバーベキューをしました。とても美味しかったです。それからサッカーをしたりキャッチボールをしたりして遊びました。ホストファミリーの人とめっちゃ仲良くなれてよかったです。

次の日は体験入学をしました。日本の学校と全然違ったのでビックリしました。カンガルーやコアラをさわったりもして楽しかったです。

そして、ホストファミリーと帰ってレセプションの準備をしました。

レセプションの会場は思ったよりも大きくてビックリしました。他のホストファミリーの子とも仲良くなれてよかったです。「ズッコケ男道」は、途中で音楽が止まってしまって4回くらいやったけど、みんな一緒に踊ってくれてとても嬉しかったです。終わってから家に帰るときの車の中で「ダンスが上手かったね。楽しかったよ」と言われてとても嬉しかったです。頑張って練習してよかったと思いました。

次の日の朝、お母さんとお姉さんにお別れを言って、学校まで行きました。お別れときはとても辛かったです。

パスで少し買い物をして、空港に到着。ここでお世話になったガイドさんと運転手の方とお別れ。みんなで写真を撮って飛行機に乗りました。オーストラリアでの8日間はあっという間に過ぎてしまいました。

私は出発するときの自分と帰ってきたときの自分は全然違う気がします。学校の英語の授業では学べないことをたくさん学びました。買い物もできるようになって、大きく成長できたと思います。この海外派遣を企画してくださったみなさんに心から感謝しています。私はもっと英語を勉強して将来オーストラリアに行きたいです。

保護者の目から見た派遣事業

「中学生海外派遣事業に参加させての感想」

足 立 ち 香 子

このたび、中学生海外派遣事業に参加させていただいて感謝の気持ちでいっぱいです。まず、自分の意思で参加を決めてやり遂げたことが嬉しい。初めての面接を経験し、ダメかもしれないが面接を受け得たことは収穫だと語り、あまりのハードさにもう何もする気になれないと悲鳴をあげたり、不安と楽しみと心が揺れ大変でした。乗り切れたのは仲間のお陰、事前研修のたびに友情が深まっていったようです。

本人が行きたいと思ったきっかけは先輩の話聞いてその気になったようです。貴重な体験をさせていただくことができましたのも、企画していただいた役場の方はじめ、導いてくださった皆様方のお陰です。毎日の報告のメールが楽しみで、大変安心できました。

準備が長かったかわりに、1週間はあっという間に過ぎるという感想に頭が下がる思いです。大変お世話になり有り難うございました。



いろいろな発見

安 福 友 紀



移動のバスの中で記念撮影！みんな笑顔！

私は中学生海外派遣事業に参加して、とても貴重な体験ができて良かったです。

ファームステイでは日本にはないすごい大自然にビックリしました。まず、最初の作業は看板作りでした。機械で木をきれいにするとところからして、文字もみんなで彫って、思っていた以上に大変だったけど楽しかったです。看板を立てるのもみんなで力を合わせてスコップで穴を掘っていきました。その土はとてもやわらかくて、粘土質という発見がありました。看板を作るのも、穴を掘るのも、とっても大変だったので、立てれた時はとても嬉しかったです。夜にはキャンプファイヤーをして、たくさんの星を見ることができました。日本では見れない南十字星や天の川などのたくさんの星が見れて感動しました。大自然にふれあえて、いろいろな発見があったし、日本では体験できないようなこともたくさんあって、いい思い出になりました。

ホームステイでは、自分から積極的に話すように頑張りました。でも、自分の言いたいことは辞書などを使ったらわかってくれるけど、相手の言っていることが聞き取れなくて、笑顔で乗り切ったりして頑張りました。ショッピングに行って、お金の使い方がわからなかったのが、ホストファミリーの人に聞いたら優しく教えてくれて、買うことができてよ

かったです。夜にピザをみんな1枚ずつ作って、その時は話が盛り上がってとっても楽しかったです。次の日の夜は焼きそばを作ったけど失敗してしまいました。でも、ホストファミリーの人は美味しいといって食べてくれてよかったです。失敗したときは、日本に帰ったら焼きそばを作る練習をしようと思いました。お風呂はシャワーだったので、湯船につかりたいと思いました。飲み物は炭酸飲料ばかりで、最初は美味しかったけど、ずっと飲んでいるとお茶が飲みたいと思いました。

ガバナースターリン高校を見学して生徒の人がギターを演奏してくれました。その後に私たちが歌とダンスとラジオ体操をして、一緒に楽しそうにラジオ体操をして盛り上げてくれて嬉しかったです。その後に動物園に行って嬉しかったです。カンガルーに餌をあげると食べてくれて、とってもかわいかったです。コアラも見ただけじゃなくてさわることができて嬉しかったです。他にもいろんな動物がたくさんいてとってもかわいかったです。

夜、レセプションで今までずっと練習してきた出し物を見せるときがきて、とっても楽しみでした。まず最初にダンスをして順調に進んでいたのに、途中で曲が切れてしまいました。もう一度チャンスをもってトライしました。それなのにまた同じところで切れてしまいました。もう一度したけど、また同じでした。私たちは3回もしてダメだったので、あきらめかけていました。プレーヤーを変えてやってみたら大成功でした。ラジオ体操もみんなやってくれて、今までの中で一番最高でした。4回もチャンスをくれた人たちにとっても感謝しています。

帰るときは、オーストラリアにもちょっとずつ慣れてきていたのに寂しかったです。

保護者の目から見た派遣事業

「次のステップ」

安 福 成 行
なり ゆき

中学生海外派遣から帰ってきて最初に「どうだった？もう一度行きたいか？」と質問したところ、「楽しかった！もう一度行きたい！」と即答が返ってきて、行く前はいろいろ心配しましたが、このひと言で安心し、行かせて良かったと思いました。

帰ってから、派遣中の出来事をこれまでにない表情で楽しそうに話してくれます。

姉が留学して体験したいろいろな良さを聞き、短期ですが自分でも体験したいと思い、今回の派遣に参加させていただきました。また、この体験が自分にとって何かはっきりと表現できないようですが、心の中の小さな扉を開いてくれたと思います。

今後の生活でその扉を大きくして、次のステップを見つけてもらいたい。

引率し、毎日状況報告をしていただき、何の心配もなく帰ってくることができたことを、お世話になった方々に感謝しております。この中学生海外派遣事業を今後も続けていただき、一人でも多くの子どもたちに異国の生活を体験させてあげていただきたい。

留学した生徒の皆さん、大人になってもできるだけ稲美町内に住み、稲美町を盛り上げていきましょう。



海外派遣を通して学んだこと

太田垣 ^{あや}彩子



私の背よりデカイ！！

私は今回の派遣事業で普段感じない気持ちや経験したことの無い感動をいっぱい感じることができました。ファームではかわいい動物たちとふれあったりキャンプファイヤーをしたり、プラネタリウムのようにきれいな星空を見て感動したり、色んな経験をしました。そこで私は、ファームを運営しているジョンさんのたくましさを見て、自分たちは甘やかされているなぁと感じました。私たちのする仕事を何倍もの速さでこなしていったり、ケガをしても騒がないで何事もなかったかのように振る舞ったりして、こういうたくましさは見習うべきだなぁと思いました。ファームで私たちはお互いの「きずな」を深めていきました。事前研修では他の学校の子たちとはしゃべらなかつたし、男の子たちとは全く無縁だったのに、ファームを出る頃にはすっかりひとつにまとま

っていて、オーストラリアに行かなかつたらこのまま出会わなかつた子もいると思うと、オーストラリアに行けてよかつたなぁと思いました。

ハッチンソンファミリーでは、ハンナがホームステイを日本でやっていたせいか、とても気をつけてくれたり、優しくしてくれて、とても嬉しかつたです。わからない言葉や文があると私ができるまでいろいろな方法で教えてくれて、とても嬉しかつたです。言葉は違えど、伝えたい気持ちさえあれば言葉の壁を乗り越えられるのかなぁと思いました。私は外国の家で1人で泊まるのはかなりドキドキして、朝リビングに出て行くのもドキドキしていました。途中のシンガポールでもみんなで行動して何をかうか相談していたぐらい

なのに本当に自分は大丈夫なのかなと思ったけど、案外すんなりホームステイ先のハッチンソンファミリーと仲良くなれてとっても嬉しかったです。そして、ちょっと感動してしまったことは、オーストラリアの男性は優しいことでした。町を歩いていても「レディーファースト」といって道をゆずってくれたり、「わぁ凄いぞこわ！！」と思いました。とっても素敵な文化だなぁと少しだけ感動しました。

学校では日本と全く考え方が違ってびっくりしました。中1～高3までひとつの学校にあることとか、日本には私学でしかそんなのないし、高3とかほとんど大人の人ともふれあえるんだと思うと凄いなと感じました。そして何より違うのは、実技教科が大量にあるということです。将来に向けての技術がここで決まるのではないかなと思うほど結構マニアックな学科とかが何個もあって、それがひとつの学校に集まっているのを見ると、素敵だなぁと思いました。劇をやっているのを見せてもらったけど、みんないきいきとやっていて、楽しそうでいいなぁと思いました。日本のように机にかじりついてやるのもいいけれど、もっと実技の教科が増えたら楽しいだろうなと思いました。

その後に動物園に行ってからキングスパークに行きました。とってもレトロな感じで、マーケットと同様に映画の中にいるみたいでかっこいいなぁと思ったし、やっぱりオーストラリアやなと思いました。街並みにも驚かされてばかりだし、だから日本の街並みも外国人の人たちにとっては新鮮なのかな？と思いました。

私たちはみんなができない良い経験をさせてもらいました。それは、両親の理解があったからこそできたことなのだから本当に感謝しないとイケないし、いろいろな迷惑や、私たちのために動いてくれた多くの人々、団長を始めとした先生方や添乗員さんに本当に感謝しなくてはイケないと思いました。本当にいい経験をさせてもらいました。とっても良かったです。

保護者の目から見た派遣事業

「海外派遣事業に参加させて」

太田垣 とも 智子

昨年の夏、「私もオーストラリアへ行ってみたいなあ」と先に海外派遣に参加された先輩たちの話を聞いた娘はそう話していましたが、まさか本当に実現できるとは思ってもみませんでした。

参加の機会を与えていただいても、引退のかかった部活動の練習や試合に参加しながらの事前研修、そして、初めての海外での生活や現地でのスケジュールを最後まで責任を持ってやり遂げることができるのかなど、不安がなかったといえは嘘になります。

しかし、子ども自身の「楽しみだなあ」と準備をしながら目を輝かせ、未知の世界への希望や期待で胸を膨らませる姿を目の当たりにして、出発までには心配よりも「やれるだけ精一杯やっておいで！」という思いのほうが強くなっていました。

英語がろくに話せない娘ですが、ホストファミリーの Hutchinson 一家の方々には本当に温かく迎え入れていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。特に、娘の話に辛抱強く耳を傾け理解しようと努力して下さったことや、困った時に親身になって助けてくれたことに娘も深く感激したようです。オーストラリアの広い大地、豊かな自然も然ることながら、ホスピタリティ溢れる人々とのふれあいは娘の一生忘れられない貴重な財産になったことだと思います。

また、現地での様子をメールで日に2度も連絡いただけ、細かなサポートに保護者として心強く、安心して過ごすことができ感謝しております。

解団式での派遣生一人ひとりのスピーチやパフォーマンスからは、出発前より一段と自信が付き大きく成長した様子を見ることができ本当に感動しました。

このような機会を与えお世話いただいたたくさんの関係者の皆様に深くお礼を申し上げますとともに、今後も温かな交流が続くことを願っています。有り難うございました。



キングスパークにて

私は、この中学生海外派遣事業に参加してよかったと思います。はじめは、行きたいとは思っていませんでした。しかも、英語は私の苦手教科…。中学生1年生の勉強もついていけないのでかなり不安でした。でも、事前研修を重ねていくと楽しかったです。

そして、出発前日の夜！まだ用意が…。買い忘れがあったりスーツケースの重さは20キロまでというのを知らなくて夜中に荷物を減らしたり…。結局寝たのは0時過ぎ。

1日目は、バスで空港まで。長かったです。そこから飛行機に乗ってACに。ついたのは夜中。眠かったのですぐに寝ました。

2日目はファームステイ。行くまでのバスが長い…。でも、緑がいっぱいでした。見渡すと広大な大地が広がって素敵でした。ファームではトラクターに乗ったり遊んだり看板を作ったりしました。羊の毛刈りをする予定がアクシデント発生！残念でした。牛の乳しぼりはよかったです。キャンプファイヤーは静かにするものだと学び、ACの話の落ちが微妙なのもわかりました。私はジョンさんの奥さんが作ったジャムをもらえて嬉しかったです。

3日目は看板を立てて、ジョンさんとお別れです。そして、ホームステイの人と対面で

す。みんな美人でした。家につくとビックリ！テレビがでかい！ビリヤード場がある！子ども専用のバスルーム！ジャグジーが！そして、夜にキングスパークに行きました。パークの夜景がとてもきれいでした。

4日目は朝からずっと寝ていました。先生からの電話がきてから起きました。そこからバスケットを見に行きました。それから、買い物へ行きました。水族館への行き、アイスを食べっていると彩子ちゃんに会いました。ちょっと話せてよかったです。その後はマーケットに行きました。でもほとんど閉まっていた。お父さんはサーフボードを2個も買っていました。そんなに必要なのかなぁ？夜はお姉ちゃんの彼氏とお姉ちゃんとコニーの4人でボーリングに行きました。靴のサイズが日本と違って困りました。それに、みんな驚くほど下手でした。

5日目は大学見学に行きました。たぶんコニーは医者になりたいんだと思います。人間の手や足、お腹周りなどが展示されていました。本物だったのでちょっと気持ち悪かったです。

6日目はコニーと一緒に学校に行きました。演奏を聴いたりして私たちは「ずっこけ男道」と「上を向いて歩こう」と「ラジオ体操」をして、とてもよかったです。みんな楽しんでくれました。その後は動物園に行ってコアラやカンガルー、ウォンバットなどにさわれました。とても可愛かったです。夜はレセプションがあってトラブルもあったけど、みんな楽しんでくれました。

7日目はホストファミリーとお別れでした。コニーはダンスの練習で見送りしてくれなかったけど、家族が見送ってくれました。とても楽しかったので別れるのがとても辛かったです。プレゼントにティディベアーを2個くれました。1つはコニーで、もう1つはお姉ちゃんと思ってねと言われました。嬉しかったです。そして、飛行機で帰りました。

この8日間はとても楽しかったです。いろいろな人に出会って、別れて、いい経験になったと思います。英語をもっと使えたらもっと楽しかったらうなぁと思いました。これからもっと勉強していきたいです。そして、こんな機会を与えてくれたことを感謝したいです。

保護者の目から見た派遣事業

「海外派遣事業に参加させて」

鶴岡 真理

この度、多くの方々のご協力のおかげで楽しく、意義深い海外派遣事業に参加でき、感謝申し上げます。

稲美町で国際交流があると知り、チャンスがあれば是非参加させたいと望んでいました。

出発前までは、初めてのホームステイ先で言葉も上手く通じないのではと、不安もあったようですが、ホストファミリーが一生懸命に娘の英語に耳を傾けて聞いてくれ、親切にして頂きとても楽しく過ごせたようです。

そして、ホストファミリーの心づかいで、2回も我が家にメールが届き、便利な時代だなあと感心もし、私たち家族もとても安心いたしました。

娘自身、何よりも一緒に行った仲間たちがいてくれたおかげで、そんな不安も乗り越えていったようです。

また、食生活や習慣の違い等に戸惑うこともあったようですが、何事にもチャレンジ精神で前向きに取り組めたようにも思えます。

日本にいては決して味わえなかつたであろうパスと日本の文化・経済・気候の違い等、実生活を通して学び、経験したことが何よりの思い出となり、これからの進路を考えるにあたり大変貴重な体験ができたことと思います。

もし、次にホームステイに行くチャンスがあれば、英語はもちろんのこと、相手先で何を学びに行くのかテーマを持って行くことができればもっともっと意義深いものになるように考えます。

とにかく、初めてのホームステイが大成功で終えたことがとてもよかったです。

来春にはホームステイ先の方が稲美町に来られるとのこと。その時は、また友好を深め、国際交流に貢献できればと思います。

今だから言えるとおきのエピソード

- ・ 食べ物がパンじゃなくて大変でした。炭水化物ばかりだし、炭酸飲料ばかりだし、お菓子いっぱいくれたので太ってしまいました…。
- ・ 飲み物が毎日炭酸飲料。久しぶりにお茶も飲みたくなった。
- ・ 日本の食べ物が恋しくなった。
- ・ たまに「水いる？」ってきかれて、のどが渴いているから「Yes！」って返事するんだけど、たまにはジュースも飲みたいなあ～って思った。
- ・ ジュースといったらコーラしかなくて、骨が溶けてしまいそうな気がして嫌だった。
- ・ マクドが家から近いのもあって3回ぐらい行った。もうマクドは飽きたよ～。
- ・ お菓子がとても甘くてビックリした。
- ・ 日本がとても恋しくなりました。何より湯船につかりたくなりました。
- ・ ファームで最初にシャワーを浴びていて「とってもあったかいな～」と思ってあがったところ、何とその時にお湯を使い果たしてしまっていたみたいで、後から入った人は水しか出ずにとっても寒い思いをさせてしまいました。すみません。
- ・ ファームのトランポリンは超弾む！楽しかった！
- ・ ファームでの羊の毛刈りの時、何だかかわいそうに思っていると中止になったのでほっとしてたかも。
- ・ ファームの1つのベッドに6人で寝ようとした。でもさすがに6人はちょっと…。
- ・ ファームステイのとき、合宿気分みんなで夜遅くまでいろいろしゃべってました
- ・ レセプションの会場で現地の人に話し掛けられた。誰だこいつ？と思ってしおりを見たらグレゴリーニ市長だった。
- ・ レセプションの時、トイレに行くとき偶然市長さんと出会って記念にサインをいただいた。
- ・ ホストファミリーとのお別れがとても悲しかった。泣いている人がいて、もらい泣きしそうだった。
- ・ レセプションでは、最後は本当に感動した！
- ・ レセプションの夜、ホストファミリーのお母さんがなかなか帰ってこなくて焦った。
- ・ はじめはコインが何円かわからなくてお札しか使えなかった～。
- ・ 外国人のサングラス姿を見て、思わず買ってしまっている自分がいた。
- ・ 空港の品物はばったくりやで！！
- ・ 「いただきます」は言ってくれるけど、「ごちそうさま」は一度も言ってくれなかった。
- ・ ラジオ体操のどこが面白いんだ！？
- ・ 動き出すバスに向かって最後まで手を振るホストファミリーの姿に涙がこぼれそうになった。僕も力いっぱい手を振り返し、会えてよかったと何度も思った。
- ・ 飛行機の中でテレビゲーム！何年もやっていなかったので使い方がわからなかった。こんなところでやるとは思っていなかったのだからちょっと感激！
- ・ ホテルで鍵を部屋に閉じ込めてしまった。

- ・ オーストラリアの海岸でサーフィンしてる人を見た。サーフィン魂が熱いから冬の海でも平気なのか！？
- ・ ビーチは水がとても冷たかった。海から上がる前に塩辛いかどうかを確かめた。
- ・ 向こうにもオセロがあって、やってみたら6 1対5…。なんだか申し訳ないことをしてしまいました。
- ・ カンガルーをバックに写真！遠すぎてカンガルーが写っていなかった。
- ・ 添乗員の方や運転手の方、現地の案内の方とのお別れがとても辛かったのは本当に初めてです。ハーワードさん、福岡さん、武田さん、本当にありがとうございました！
- ・ 武田さんの「だわさ～」が忘れられない。
- ・ 現地ガイドのタケさんは日本語で喋るときと英語で喋るときのキャラが違う！
- ・ ホストファミリーの家にはビリヤード台があった。
- ・ ホームステイ先の家にはゴミ箱がお風呂にしかない。とても探しました。
- ・ ホストファミリーはA.M.2：30になってもテレビを見ていた。
- ・ ホストファミリーの家は庭にプールとかいろいろあって稲中くらい広かった。
- ・ ガバナースターリン高校に行く日、「昼ご飯を作ってあげる」といわれたので、どんなものが出てくるのかと思っていたら“みかん”と“お菓子”だった…。
- ・ ホストファミリーのお母さんがフットボールチームのイーグルスの大ファンだった。毎日TVを見ながら叫んでた。
- ・ あげたお土産のサイズが合わなくて少し小さかったみたい。でも喜んでくれて良かった。
- ・ 耳かきを持っていけばよかった。耳がかゆくてたまらなかった。
- ・ 15歳と言いたかったが、間違えて14歳と言ってしまった。ホストはいまだに14歳だと思っている。
- ・ エレベーターで1階に行きたくて を押すと2階だった。Gを押さないといけなかったのか！？
- ・ ほとんど外食！！しかもお父さん以外みんなご飯を残す。
- ・ お姉ちゃんの彼氏がホームステイ1日目の夜にタキシードを着て花束を抱えてやってきた！！紳士的！
- ・ 車に乗るたびすぐ寝ちゃった。
- ・ 学校へ行く車の中でみんな化粧してた！
- ・ ホームステイ2日目でもう帰りたいて思った。
- ・ オーストラリアの人はバスの中での声がとても大きかった。
- ・ 冬なのにタンクトップだったのでビックリ！私はジャンパーにマフラー…。
- ・ 電車の中でも大音量で ipod を聞いていた。しかも大きい声で歌ってる。日本だと絶対注意される！
- ・ ホストファミリーの家にけん玉があって、「やってみて」と言われて頑張ったけどできなかった…。
- ・ 飛行機の中でお手ふきを回収するとき、指も一緒につかまれた。
- ・ ホームステイ中に手紙を出したけど、着いたのは帰ってきた次の日だった。